

ほとけの 混和会だより

三宝に帰依

令和六年六月

東光院
東大寺

第172号



この度、印西市平岡の
東大寺住職を兼務させて
頂く事と成りました。

私達が、この世に於いても
来世に於いても、安心に満た
される幸せな日々を歩むに
は、先ず三宝を敬い帰依す
る御心を抱くことは最も尊
いことで御座います。
聖徳太子様は日本で初め
て十七条憲法を制定され
て、その第二番目に「篤敬三
宝」篤く三宝を敬いなさいと
言っておられます。
三宝とは、「仏・法・僧」と
漢字で記し、インドの言葉で
「ブツダ・ダルマ・サンガ」と言
います。
仏教を信仰する上に於い
て最も大切な心の宝です。

去る 四月十二日

東大寺住職故木内堯瑞
様が誤嚥性肺炎の為
ご逝去されました。

よって法縁に当たる私
が、急遽兼務住職として
務めさせて頂く事と成り
ました事、爰に謹みご報
告申し上げます。

大変未熟な私では有り
ますが、ご先祖様を敬い
感謝の念を捧げて、共に
三宝に帰依し、人と人、
共に寄り添う「よりど
ろ」と成るよう努めて参
りたいと存じます。

人と人それぞれの思い
を受け入れ共に理解を深
めるには長い長い時間と
努力が必要かと思いま
す。批難中傷何でも結構
です。すべて私への導きと
受け止めて務めて参りた
いと存じます。ご指導の
ほどお願い申し上げます。

三宝に帰依する
ことによつて
安心に満たされる
よりどころが
築かれます。

仏・法・僧・この三宝を敬い
帰依する事は私達が生きて
いく上に於いて最も尊く大
切な事で御座います。

「仏」仏様と「法」その教え、
そして「僧」共に生きる私達
が共に敬い感謝の念を捧げ、
共に信じ合う事が出来れ
ば、そこは安心と喜びに満た
される「よりどころ」と成り
ます。

昨今の欲望まみれの競争
社会に於いては、神様も仏様
も人も、共に信じる対象を
会得する事が大変難しく成
つて参りました。

仏教の信仰は強要するこ
とはありません。自覚の宗教
です。

自らの行動によつて、仏様
と私達、そして人と人、共に
信じ合い共によりそう、より
どころが築けると私は信じて
おります。

己を忘れて他を
利するは
慈悲の極み也

この、よりどころを築くに
は、己と言う「我」を捨てて、他
の幸を念じる慈悲の御心を養
う事が不可欠と成ります。

この慈愛心を育む道場とし
て、比叡山を開かれた伝教大
師最澄様は「己を忘れて他を
利するは慈悲の極み也」と説い
て下さいました。

己を忘れて人々に優しさを
施し、共に他の幸を念じ、他の
幸を喜びとする。大変難しい事
かと思いますが、慈悲の御心、
この仏心が抱けた時、真の幸と
安心が抱けて参ります。

「慈悲」慈愛心の完成に務め、
共によりそう「よりどころ」を
私は「三宝の僧」「サンガ」と言っ
ております。共に務めて参り
たいと存じます。

合掌



伝教大師
最澄様



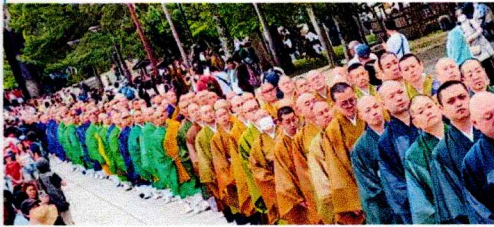
日本仏教に登場する
仏様を毎号少しづつご
紹介。昨日奈良の東大
寺にて行われた法要に
出席して参りました。
今回はこちらを紹介し
ます。

● 仏法興隆 花まつり

和の集い平和の祈り

全国各地の宗派を超
えた青年僧が集い、共
に世界の平和を祈る行
事に昭和六三年より毎
年奈良の東大寺にて行
われております。

しかし、ここ数年はコ
ロナの禍により、中止や規
模の縮小が余儀なくさ
れておりましたが、今年今
年の形が復活する要年か
ら、含天の宗派十宗活
の僧侶が宗集の集派の
一人として参りました。



様のご宝前にて厳修し
て参りました。

今回は正月に発生し
ました能登半島の地震
罹災地早期復興祈
願。延いては世界平和
及び争いの無い世界
調和を祈願し、副題を
「和の集い・平和の祈
り」とされました。お
話さ

に東大寺学園幼稚園
年長組が歌奉納とし
「世界がひとつにな
るまで」という歌を大
きな声で歌われました。
こちらの歌詞に「世界
が一つになるまで
と手を繋いでいよう
と。暖かい微笑みでも
ぐ。夢が本当になるか
ら。愛が明日を守るか
ら。」とあり、今回も
要の趣旨を一番わかり
やすく、誰よりも清ら
かな心で伝えていた。



四月七日（日曜）
お釈迦様の誕生会
はなまつりが
東光院にて
行われました。



自然と私達
そして人と人
共に生きて
共に生かされ
共に生きる



命の命
ありがとうございます。
いただきます。

私達人類は、野菜の命、鳥
や魚の命、牛や豚の命、様々
な命を頂いて生かされてお
ります。
そして鳥や魚、牛や豚も様
々な命を頂いて生かされてお
ります。
この様々な命も、豊かな
森、清らかな水、そして微生
物や小動物、様々な命が網の
目如くつなぐ。自然の営みの
中で共に生かされて居ます。
人類の都合だけで生きる事
は出来ません。
よって私達は様々な命に感謝
の念を捧げて「いただきます」
と合掌します。